

赤井

し
し
ま
し

た

R18
ADULT ONLY





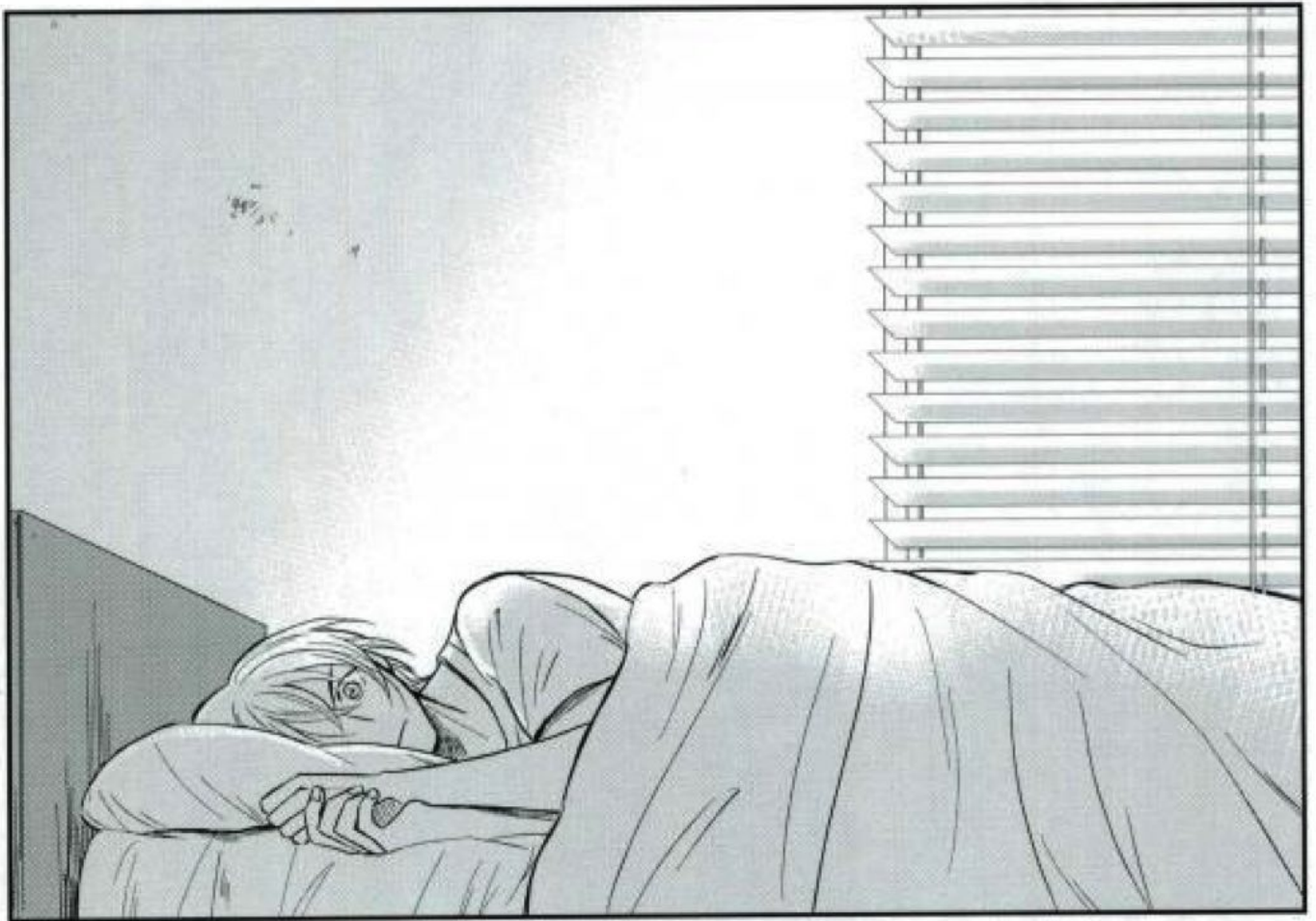


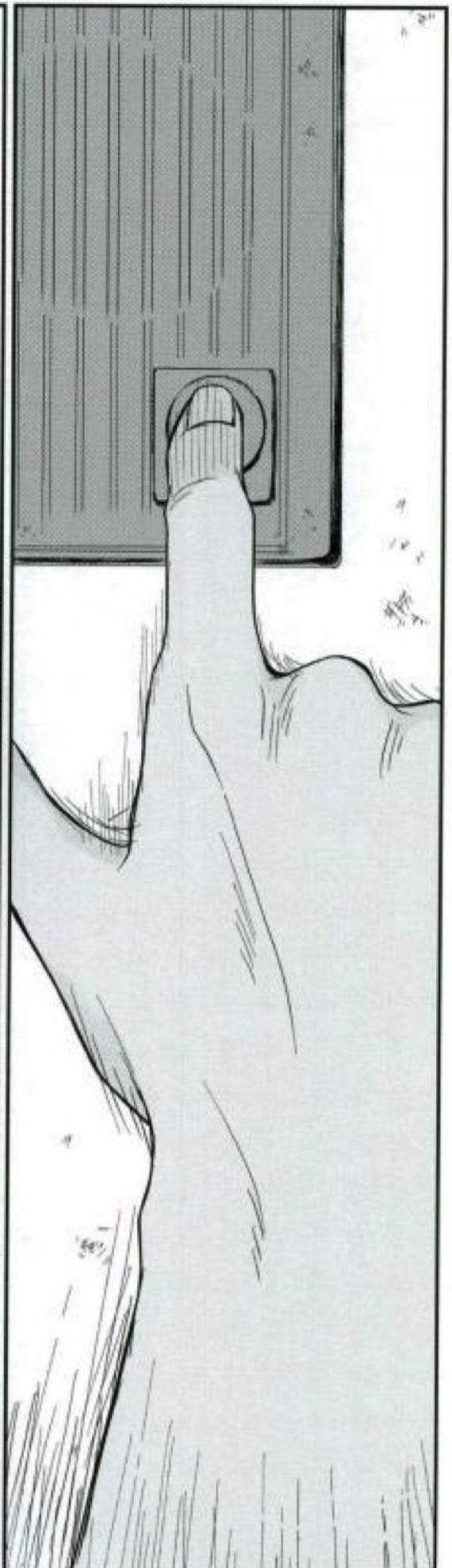
零君



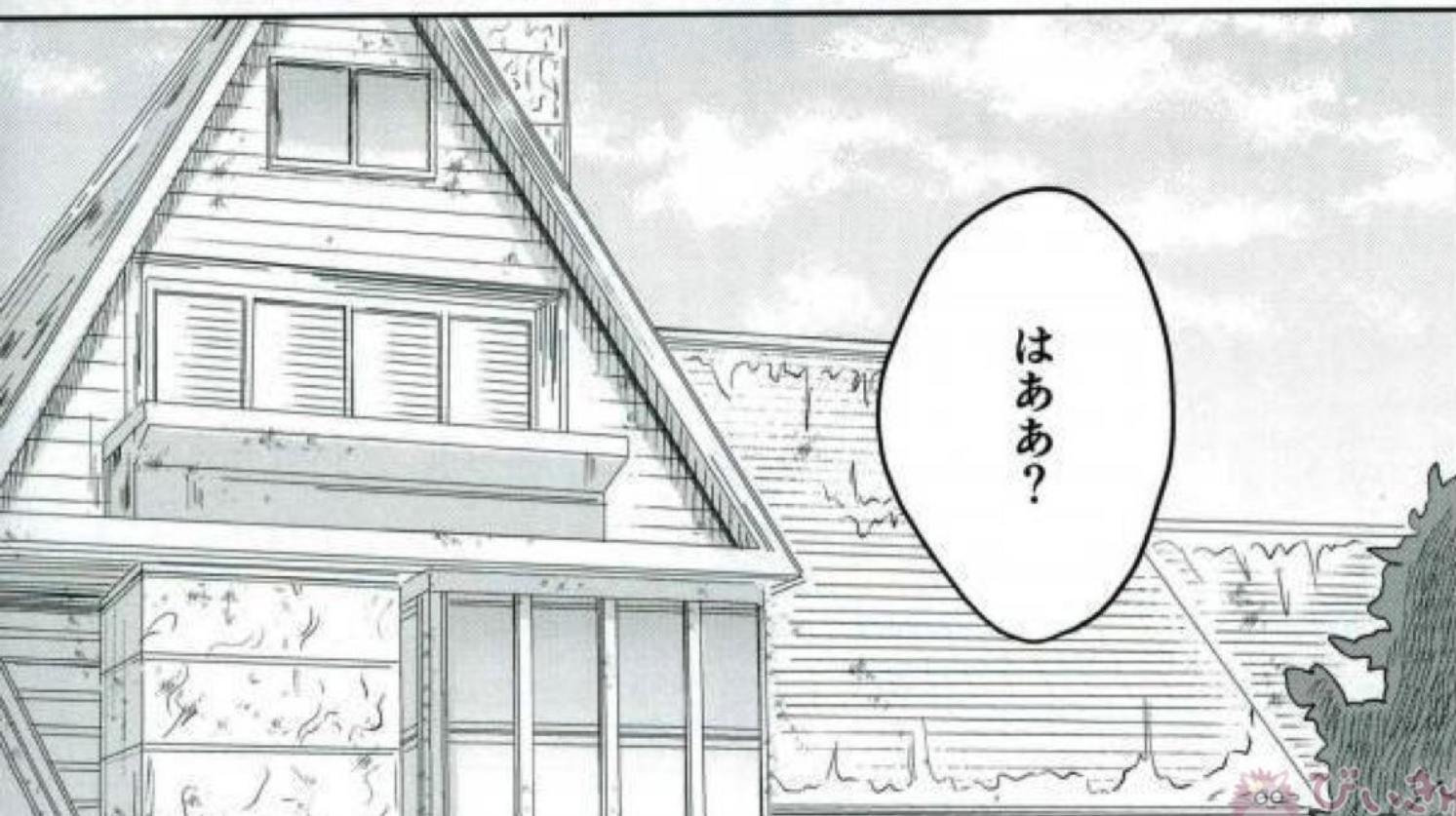
ずっと
こうしたかった







赤井と
したんだ



はああ？

赤井としました







例えば君が
平次君に抱かれる夢を
見たとする



あ、夢の話だよ

それを先に
言ってくださいよ！

あまりにも
生々しくて、

でも夢でしょ！



新一君！



なんつて俺が
服部に抱かれるん
ですか！

例えだ例え、
黙って聞いてくれ
話の論点がズレる



彼が自分のことを
どう思ってるか
気にならないかい……？

そんな夢見たら、





ああ~~~~~
君はそういう奴だ!

そういう奴だよ!

何も言っ
てませんけど

何か言うに値しないって
ことだろっ



抑制していたものを
意識化したんじゃない
んですか?



えっ?

自覚できていない
無意識な願望や
感情

抑え込んでると
夢に出るなんてこと
あるみたいですよ

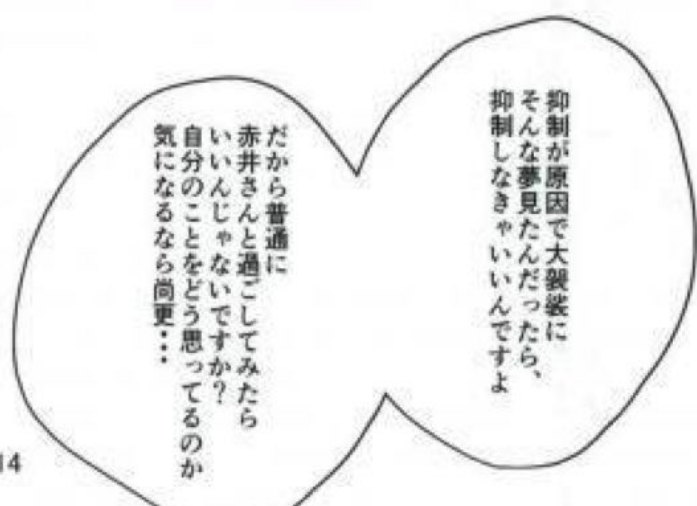


……だからって
赤井秀一に抱かれたいという
感情も願望も持ってないよ

いや、ほら、
無意識の幅は
広いですから

無い、それでも
さすがに無い

きっと何か思うことが
あるんですよ、
赤井さんは降谷さんにとって
一番信頼できる存在でしょ?







いつにする？

あら、
来たの

……いたの？

志保と買い物に
行ったと思ったん
ですけど……

やったね
降谷さん

最悪……



これは見ましたか？

いや、

映画なんて、
見るんですね

見るよ

映画より
本の方が良いのかと
思っていました

本も読むよ

...

なぜか無駄に緊張
してしまう...

か

会話が続かない...

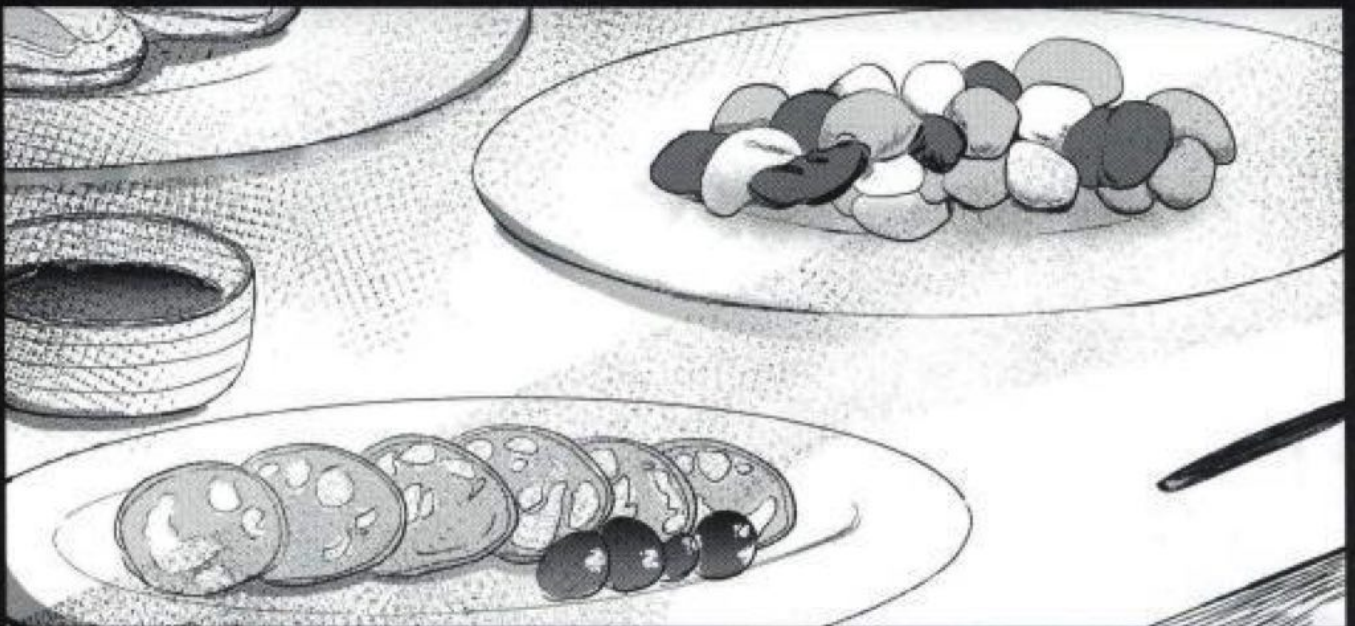


赤井…



コンビニ
寄っていきますね

ああ





この部屋
何も置いてなくて
テキトーに
揃えたんですけど……

……まあ
だから……

テキトーに飲んで、見て、
今日はくつろぎましょう！

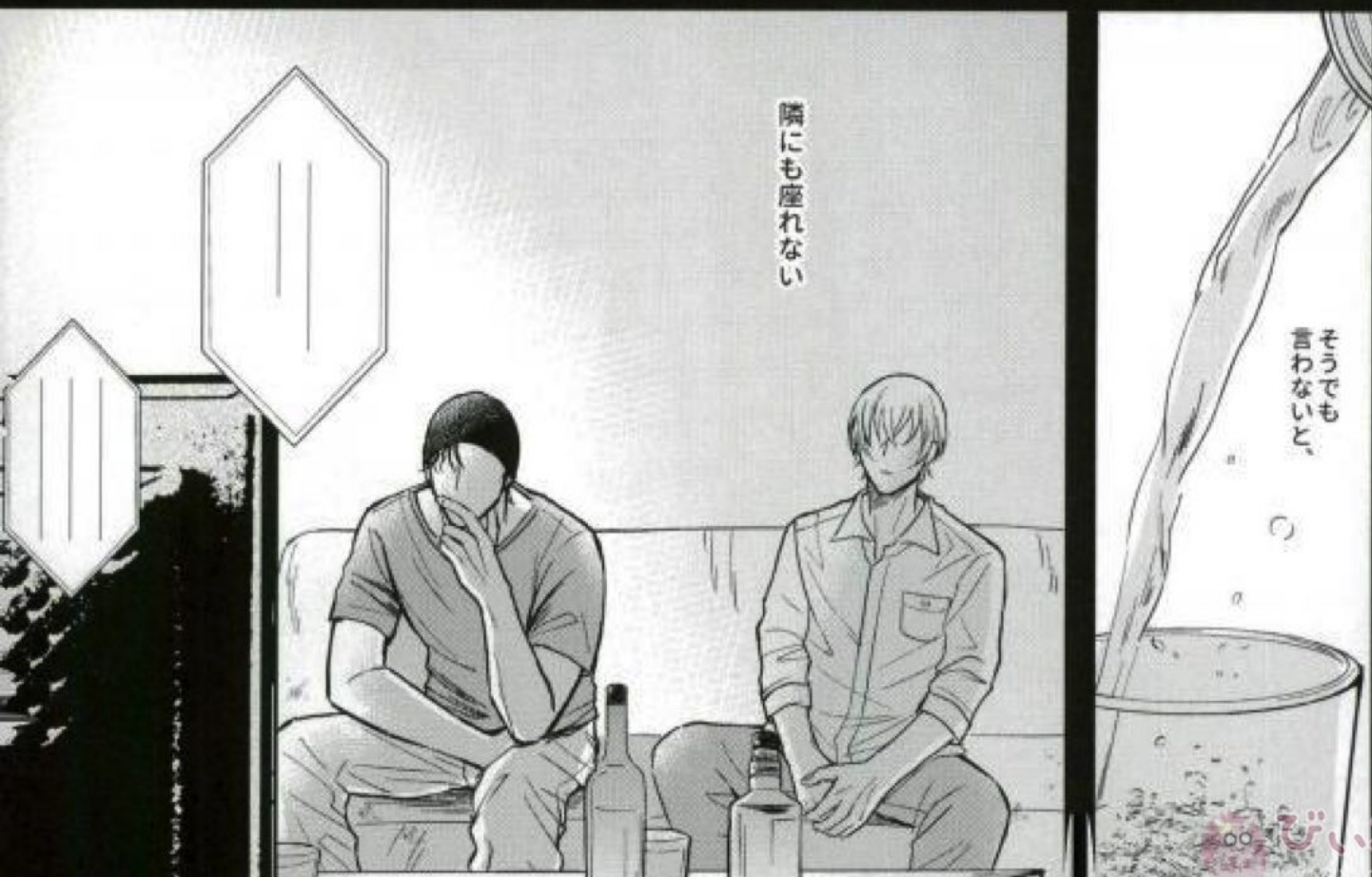
テキトー……



はは……
僕だって適当に
したい時も
ありますよ

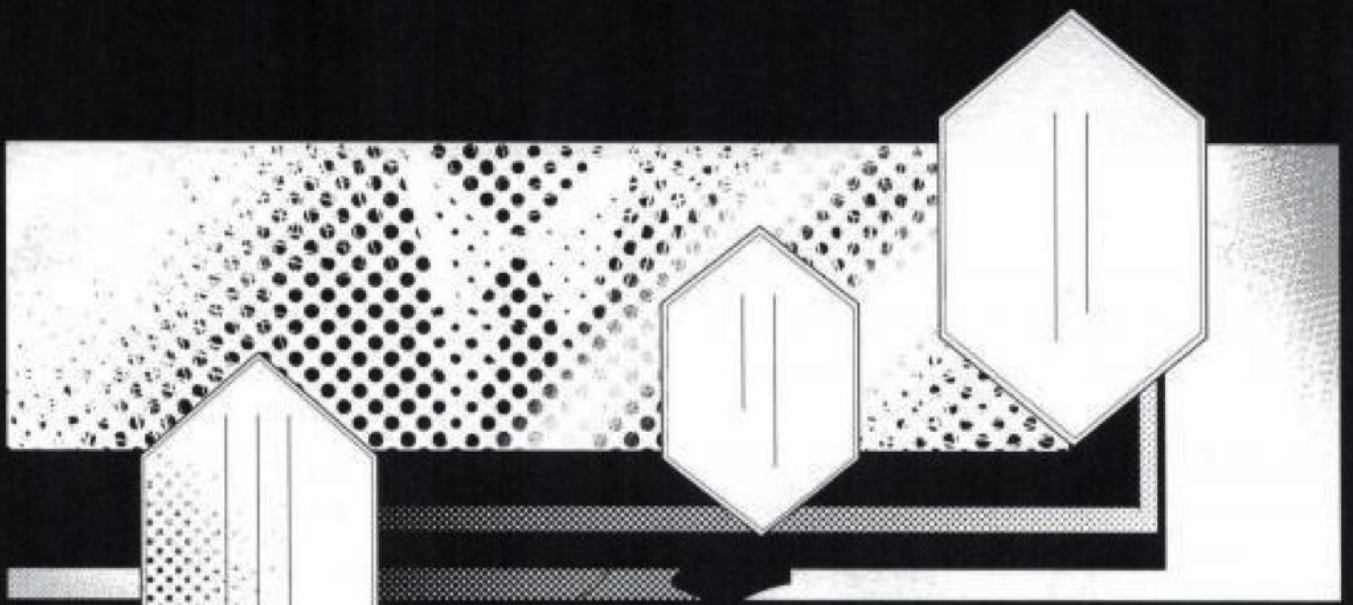
だって

君の口から
適当なんて聞くのは、
不思議な感じがするよ



隣にも座れない

それでも
言わないと、

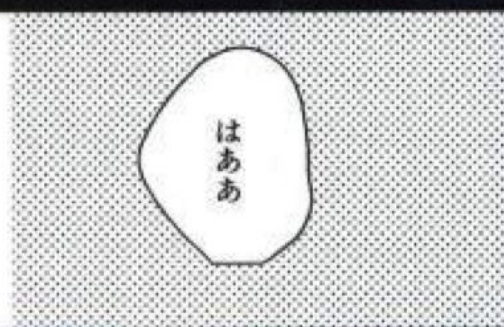


なあ、
降谷君





さっきから
あいつのことばかり
見てしまう



夢のせいだ

あんな夢





ああこの女…

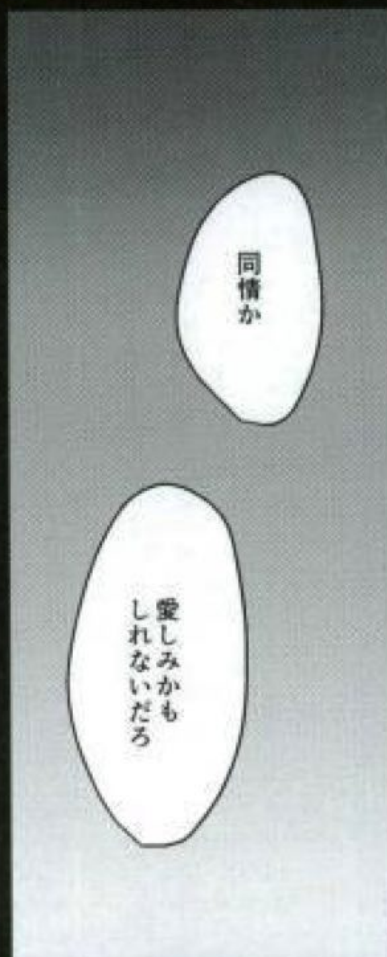
でもどの流れから
こんなことに、

主人公が一番疑っていた
人物じゃなかったのか？



それに、
日常過ごしていれば

こういう流れになる
要因はそこかしこにある




同情か

愛しみかも
しれないだろ




彼女も被害者だつてことが
分かったんだよ…


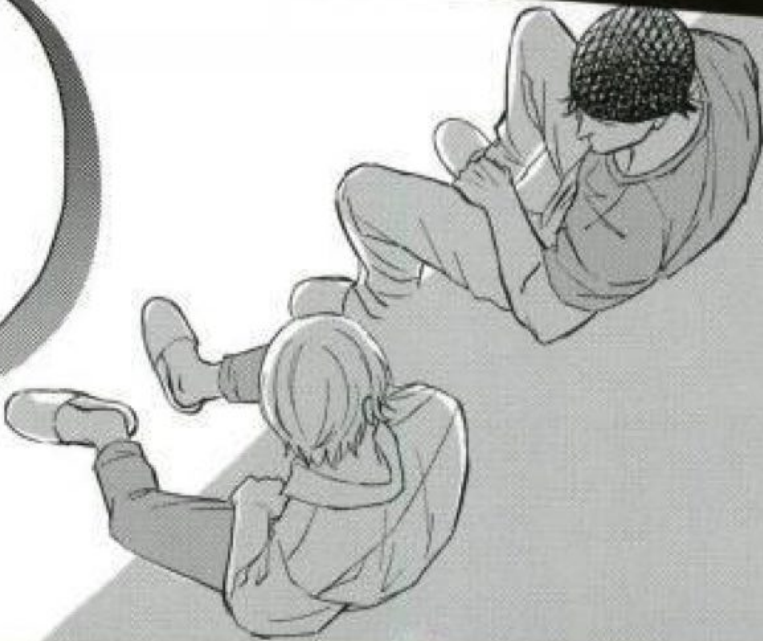
会話の途中で
絡み合いました



…
なんの
話ですか？



俺に抱かれに
行けって
なんのことだ？



聞いてたのか!?

聞こえたんだ

忘れてください

忘れられないよ、
今日そのことをいつ
切り出そうか
そればかり考えていた

...

...赤井は、

僕のこと
どう思ってるんですか

どうって、

夢を
見たもので

どんな？

あなたに、
触られる夢...

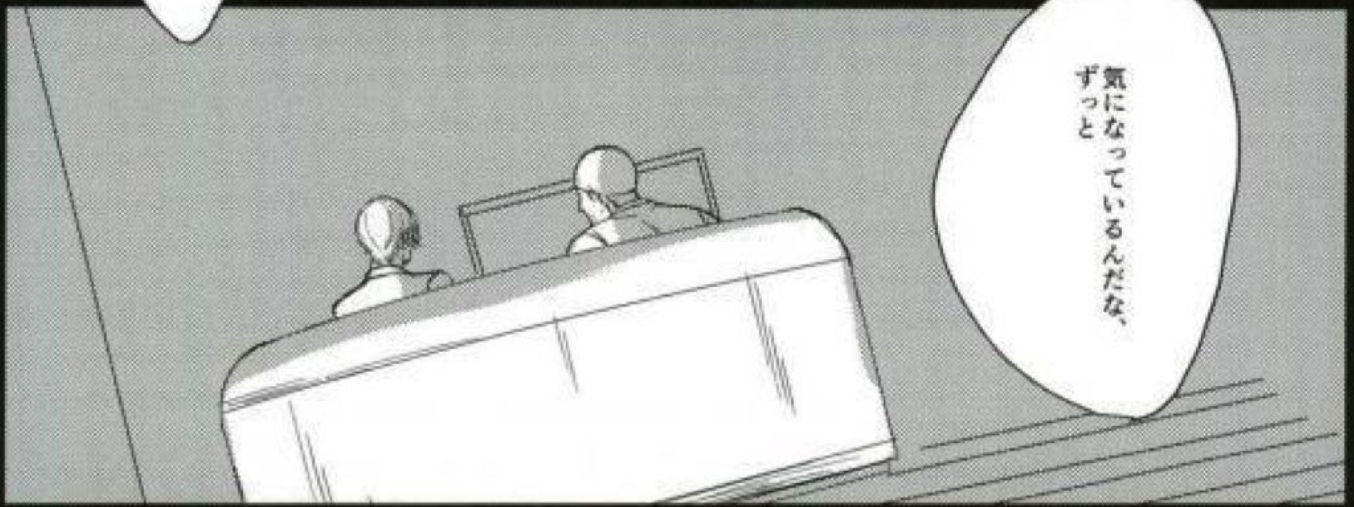


それで、ちょっと
思っただけです

僕にはそういう
願望はないので

そうか、

でも君は、



気になっているんだな、
ずっと



君のことを
どう思っているか、

君がいいなら
こんなふうに
いつも会いたい

そう思ってるよ、

…
手に触れているのは、

ラブシーンにでも
あてられましたか

いや、

君の目は俺を追うのに、

手はこわばって
いるのかと
思ってる、

案外そうでもないな



俺は君に何をした？



夢の話だよ

え？

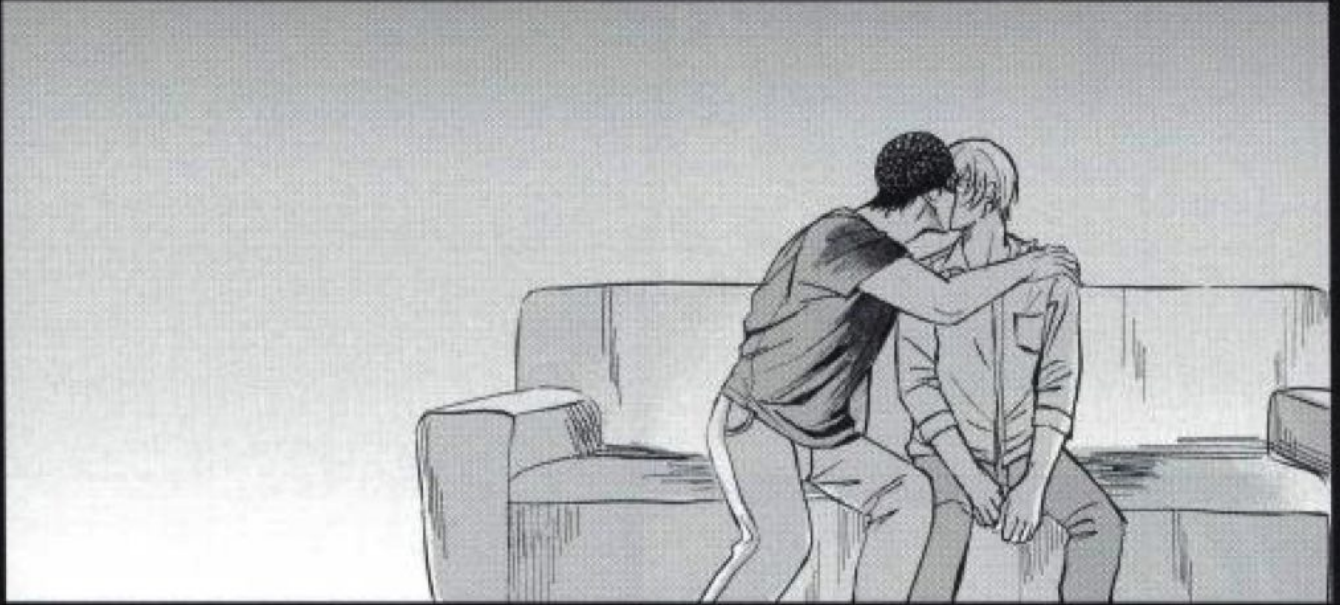


聞いているだけさ

聞いてどうする
...



君にくちつけたか









なぜ？

君が止めないなら

続けるのか

…
止めないんだな

そうだな…



悔しいから

夢の中の俺は
君に触れるのに、



今いる俺が
君に触れないなんて

それは、




嫉妬のように
聞こえますけど

そうだな、
これは嫉妬だ


自分に？
簡単に言いきるん
ですね

ああ、
明らかにそうだからね




どうして
そんな...


降谷君



なぜどうしてと聞かれても
結局俺は君に触れたいんだが、



止めないでいて
くれるなら



少しだけ触って
いたいんだが、
いいか？





すごい

何が…

降谷君が
俺の背中に
腕をまわしてる



すごいことだ



はは
降谷君

いくらでも
回せますけど…

そんなの…



脱がせていいか？



っ、いちいち
断らなくていいですよ
この際...

...なんか
もう...



夢では勝手してたくせに

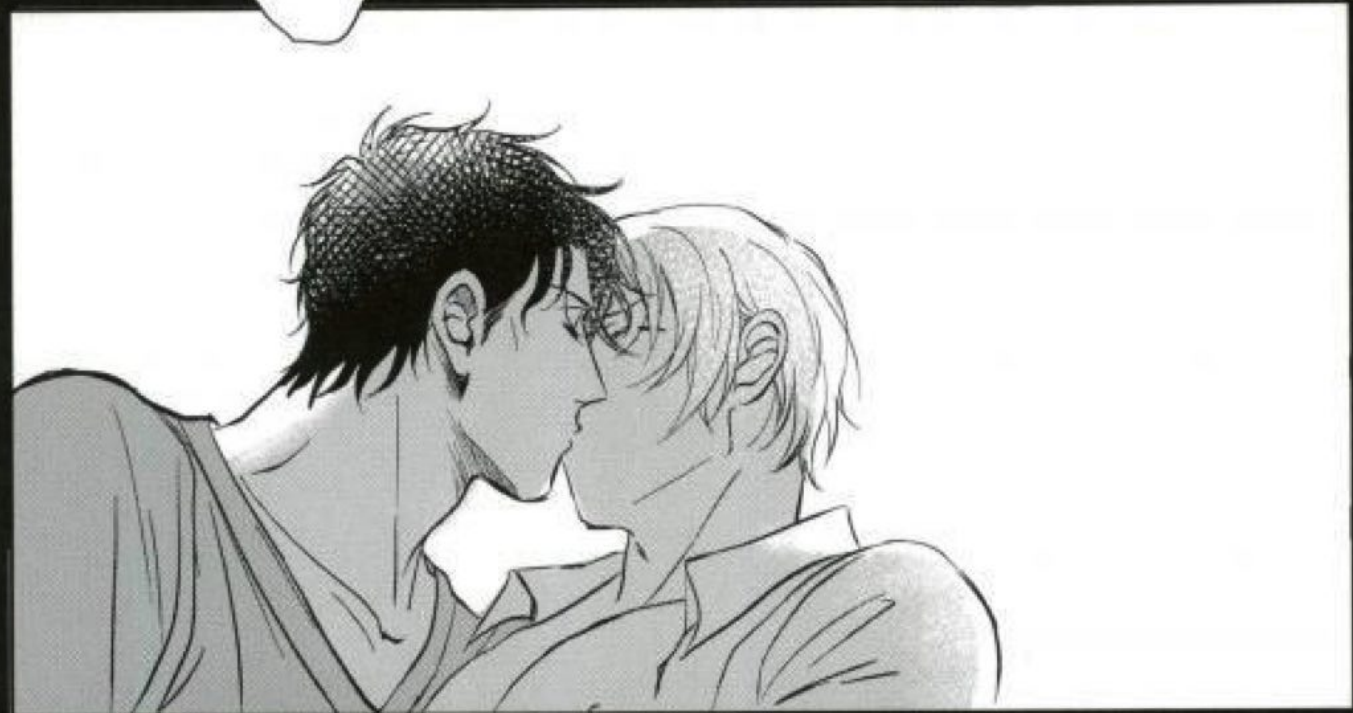
そういうもんか？



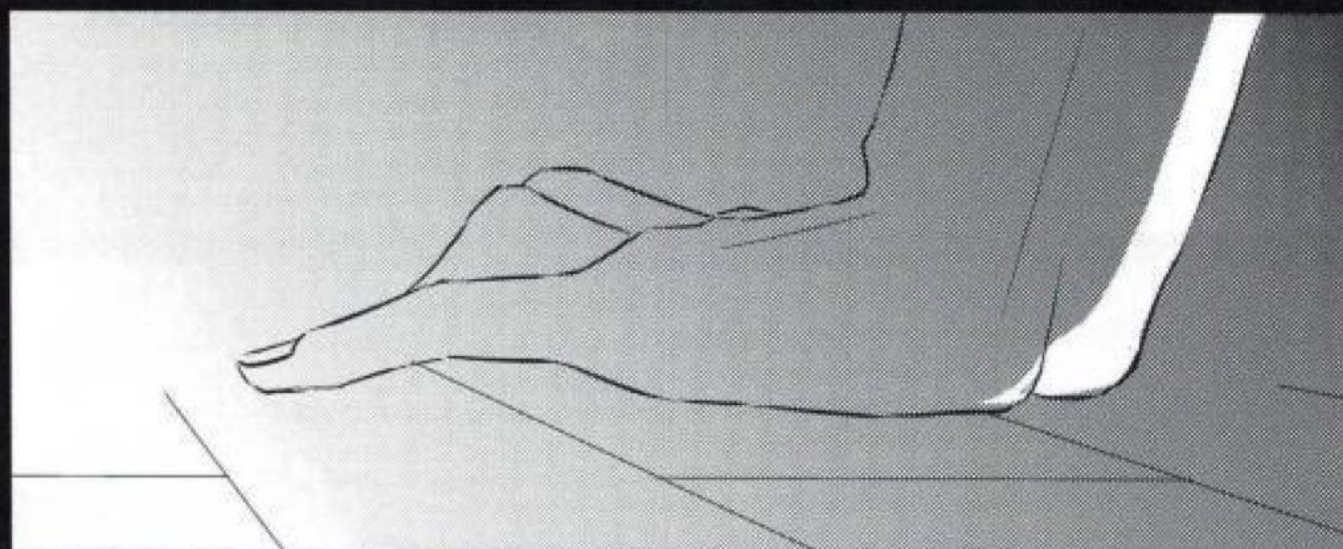
知らんよ



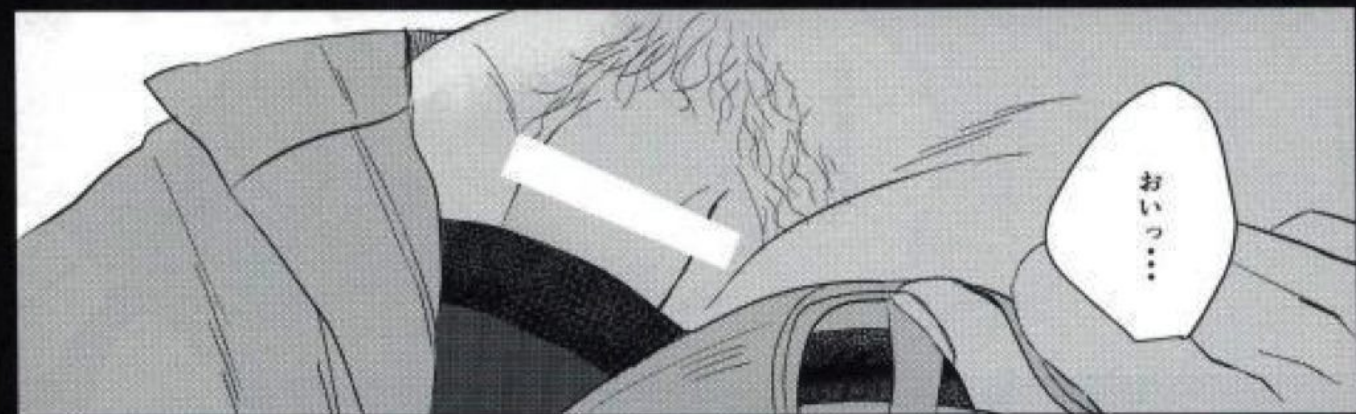
















じゃあ一緒にしよう

い、
一緒に？



あ、



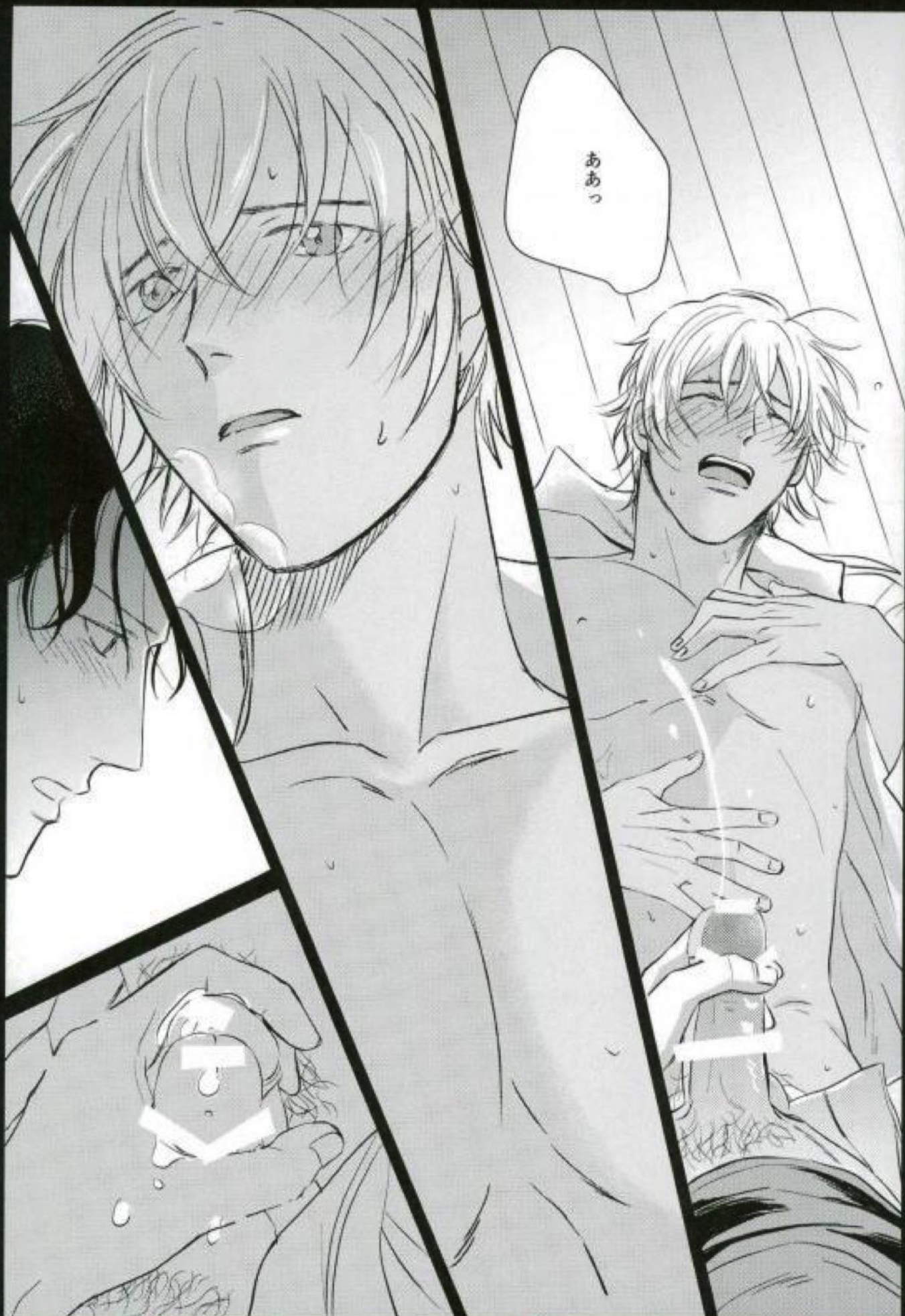
はあ、



う、
あっ……

でる……っ
赤井っ……

あっ



ああっ



この数分で、
なんてこと
してるんだろう…

なんてことしてるん
だろうと思ってるか、



俺も思った、

なんでわかる…



でも俺は…

でも、



離れがたいよ





本当にしたら
どうなると
思いますか



もう一度、

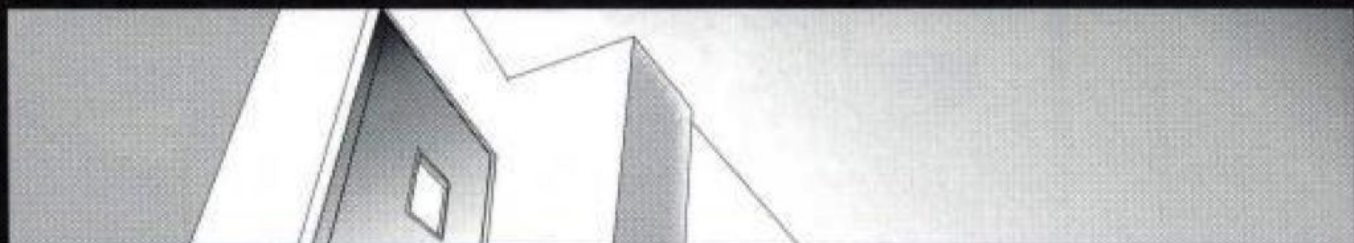
え？



僕のこと抱きしめて
くれませんか？



少し…待っていて
ください



どうしてここまで
してるんだろう

こんなことを
してまで
したいのか？

夢を見たからって

夢を見ただけなのに、

セックスって
こんなに
大変だったんだ…

。。





離れがたい



わっ!?



降谷君...

びっくりしたー...



...

はい



触っていいか?



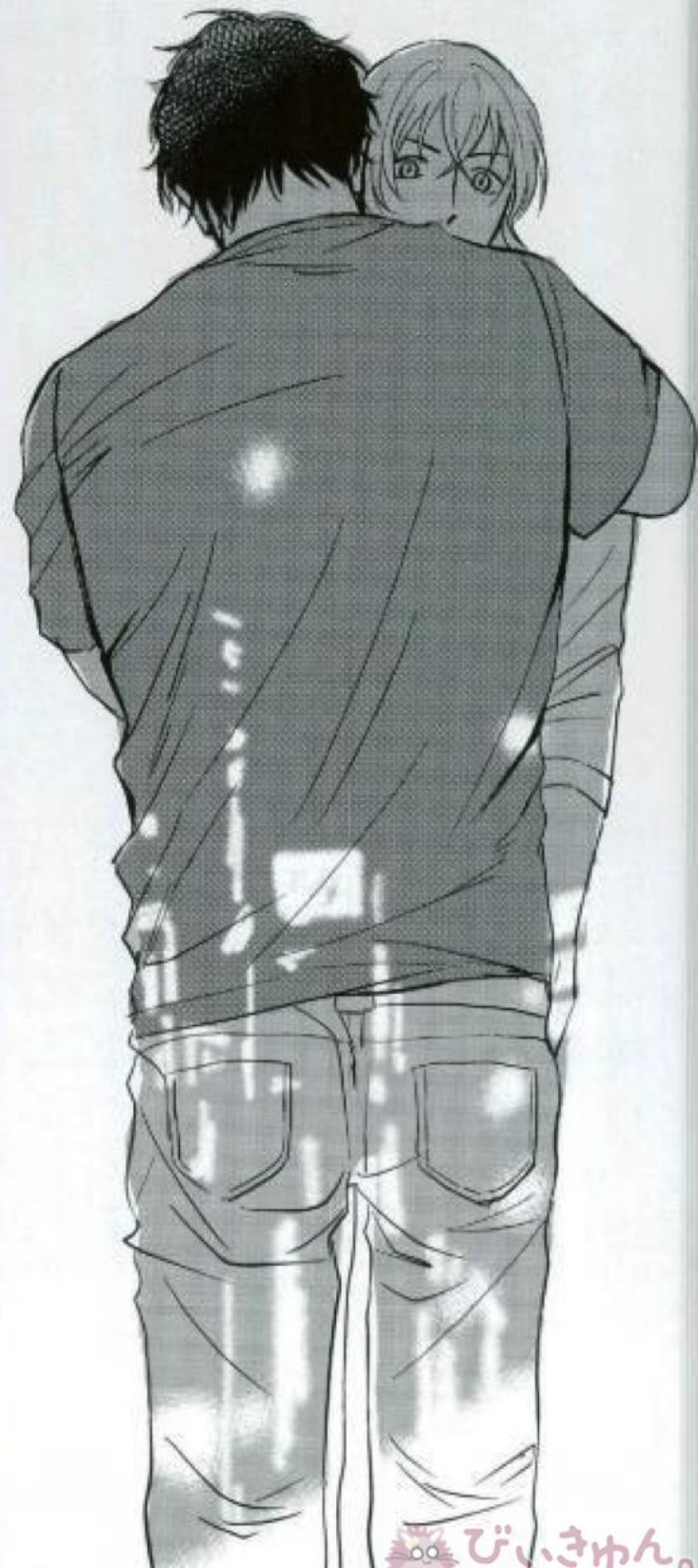
...はい...



大丈夫か?



「僕にはそういう願望はないので」







俺の服の上で
いいから、



うつ伏せになれるか？









あ……っ

ふ、

あっ

……
降谷君、




本当に続けていいのか？

……結局
何を言っても
俺に触りたいんじゃない
なかつたんですか……？



それはそうだが……


それに俺も……



…やっぱり俺も、



…と想うて…



結局いろいろ考えても、
赤井に触りたかった…

はあっ

ああっ

あっ

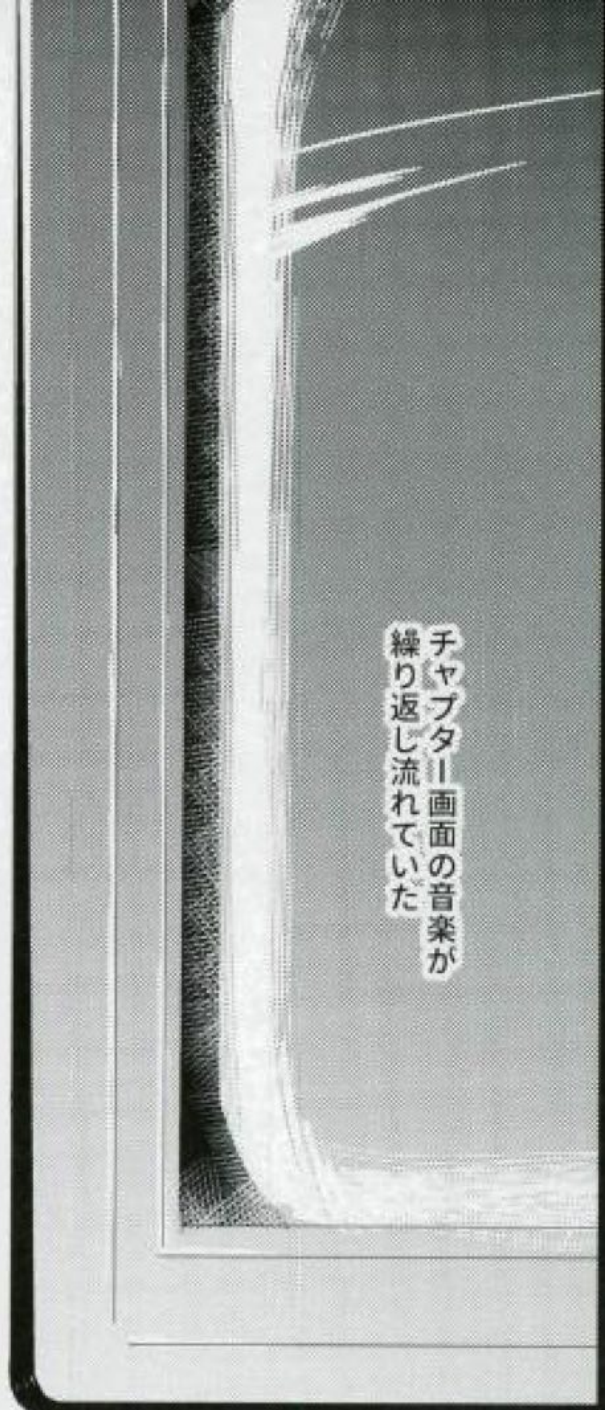
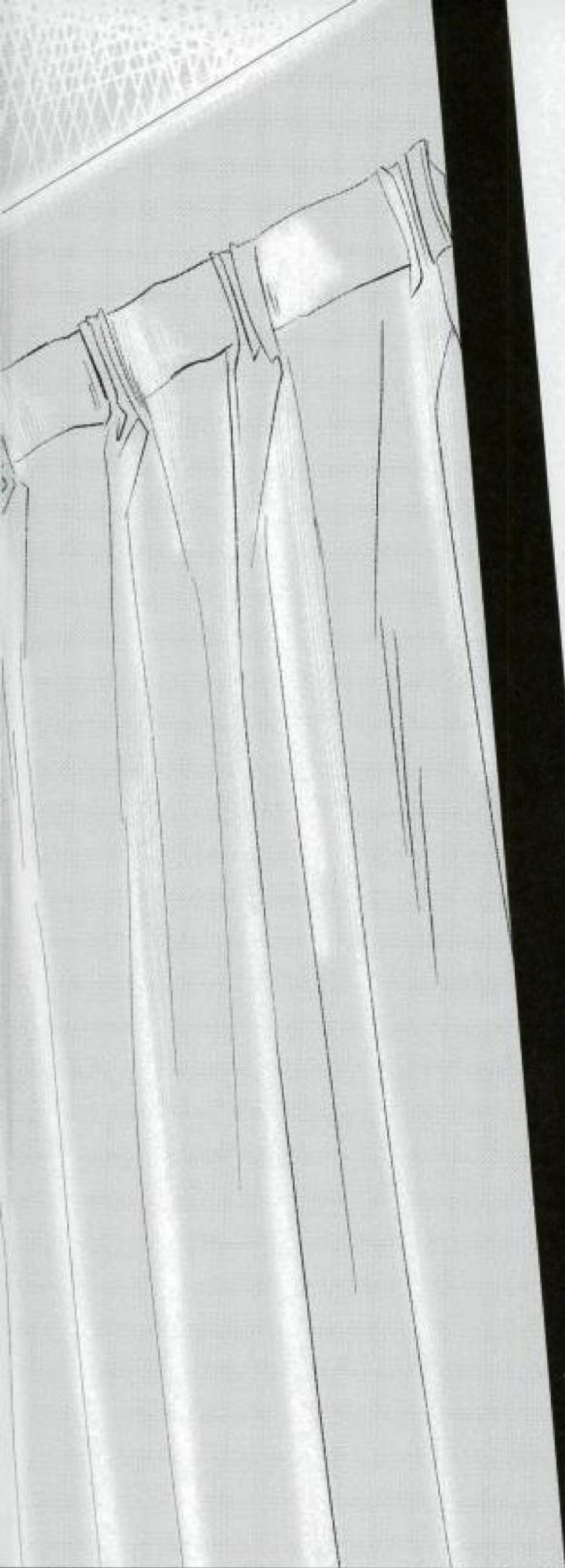
あ……っ！

ああっ

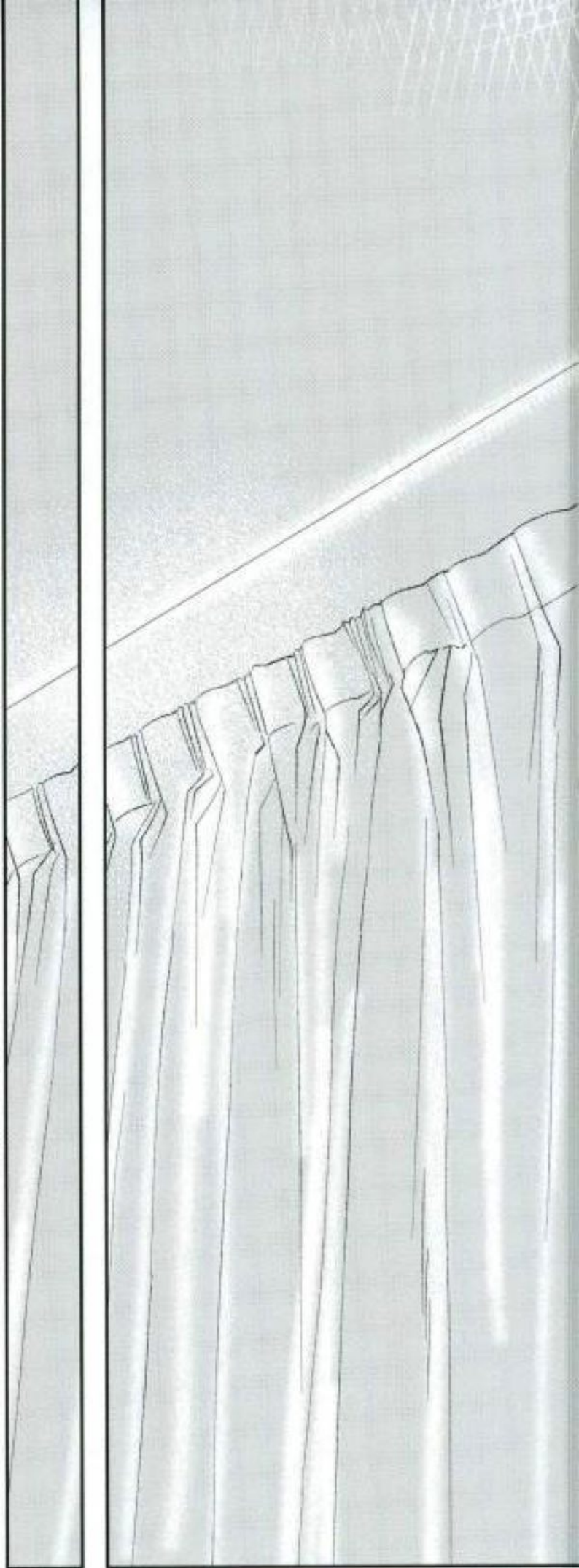
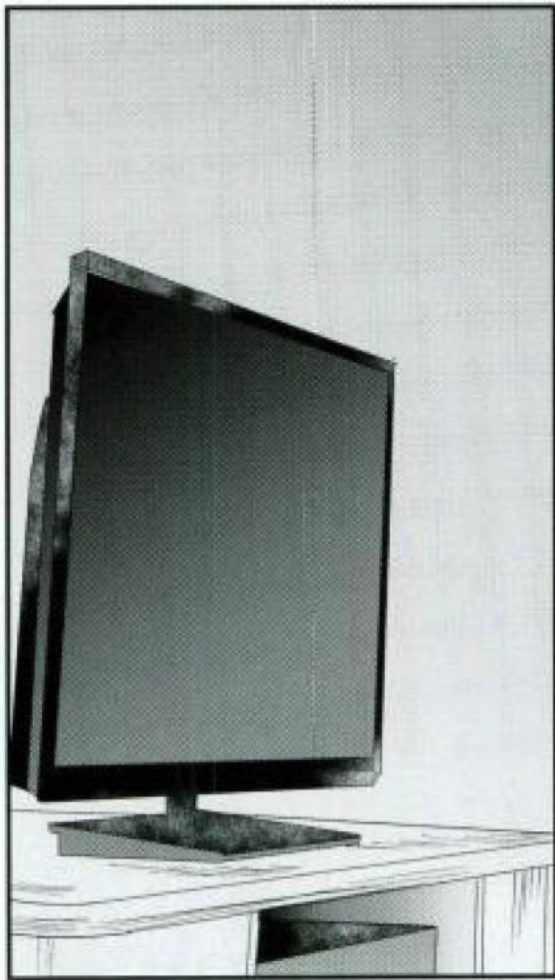
はっ……

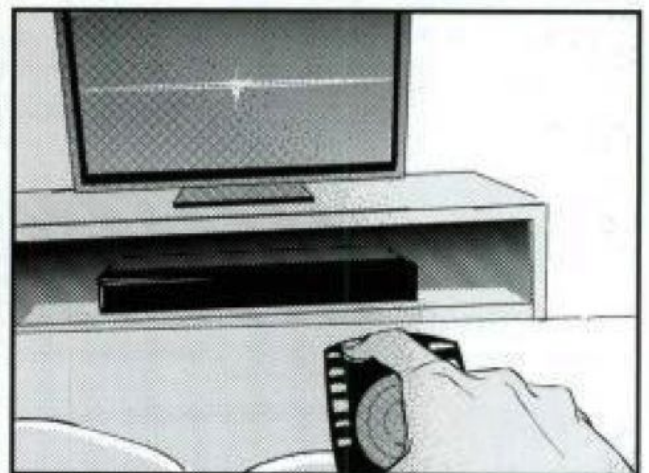
はあっ

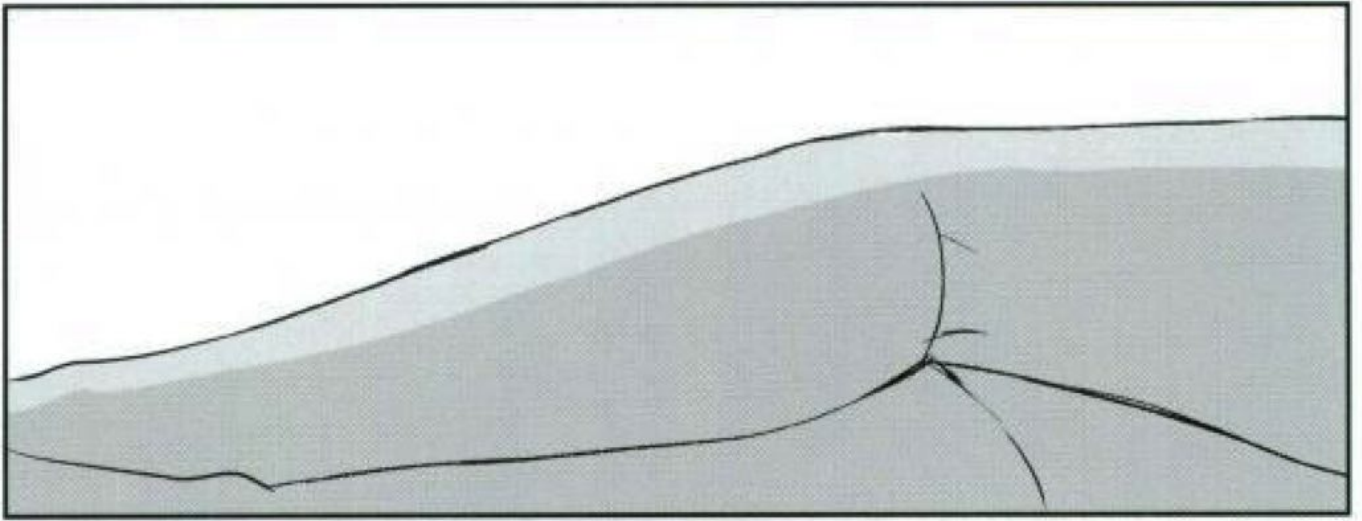




チャプター画面の音楽が
繰り返し流れていた











わけがわからない



恋愛の発生の段階……
知ってるか？

スタンダード？

ああ



感嘆から始まり、
その次は自問だ



そのあとに希望を求め、
それから恋が発生する



どんなにいいだろうって



その人のできるだけ
近くに寄って、見たり触れたり、
あらゆる感覚を持つことに
快楽を感じる



…これが恋だって
言うんですか

自問した、想像もした
君に触れることができたら





